

以上で、田原議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を11時半といたします。

〈午前11時25分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、社会保障関係費抑制に向けた取組と、ふるさと納税増加に向けた取組について。

(1) 高齢化の進展による影響などで全国的に増加傾向にある「社会保障関係費」ですが、糸魚川市として社会保障関係費抑制に向けた取組について伺います。

(2) 2023年4月1日から2024年3月31日までの間、全国規模で、ふるさと納税の受入れ金額が1兆1,175億円となっており、4年連続で過去最高を更新していますが、糸魚川市の今後のふるさと納税増加に向けた今後の見通しと取組について伺います。

2、糸魚川市における生涯スポーツの振興について。

(1) 糸魚川市が発祥と言われるニュースポーツの「スポレック」。手軽に誰でも楽しめるスポーツですが、市内の競技人口の推移について伺います。

(2) 「スポレック」は1984年に糸魚川市教育委員会が気軽に楽しめる生涯スポーツとしてルール化、発祥から40年、人口減とともに競技人口も年々減り続けていますが、過去に小学校の体育の授業に取り入れるなど、普及に向けた活動をされた経緯はあるか伺います。

(3) 美山多目的グラウンドでは、学童野球の大会が行われると、周辺の駐車場が手狭になっているが、安全性確保のため、新たな駐車場の整備の検討はあるか伺います。

3、新成人を祝う会について。

(1) 令和4年4月1日より、民法改正により成人年齢が18歳となりました。令和5年度（令和6年3月16日土曜日）に開催された新成人を祝う会（成人式）の参加者数と開催時期の適正について伺います。

(2) 令和6年度の新成人を祝う会が令和6年11月4日（月・祝）に予定されているが、開催時期の検討の経緯について伺います。

4、糸魚川市の定住人口拡大施策と子育て支援について。

(1) 柏崎市では2023年10月より、1・2歳児の保育料が無償化されています。糸魚川市においても未満児の保育料に向けての検討はあるか。未満児保育料の無償化が実現した場合、年間予算の試算を伺います。

(2) 定住人口の拡大として、市外から新たな受入れの施策も大切ではありますが、今住んでおられる方の幸福感を増幅させる取組について、糸魚川市の取組とお考えを伺います。

以上で、1回目の質問を終了します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

市長に代わりまして、東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、必要な社会保障サービスを提供するとともに、高齢化に伴う医療・介護給付費等の負担軽減に向け、健康寿命の延伸を目指し、若い世代からの健康づくり事業に取り組んでおります。

2点目につきましては、年々寄附額が増えており、今後も、より多くの皆様からご寄附いただけるよう、効果的な情報発信を行うとともに、返礼品の充実に努めてまいります。

2番目と3番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いたします。

4番目の1点目につきましては、県内他市の状況把握等を行っているところでありますが、給食費を含め、約6,400万円と試算をしております。

2点目につきましては、いつまでも健康で住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、総合計画に基づき、様々な取組を行っております。

市民が、いきいきと幸せに暮らせることは、市民の定住はもとより、市外からの移住のきっかけにつながるものと捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、市スポレック協会の会員数は、減少傾向ではありますが、年代を問わず愛好者は多いと捉えております。

2点目につきましては、市スポレック協会が中心となり、市内小学校のクラブ活動などの指導や市民向け教室、市外における指導など、広く普及を図っております。

3点目の駐車場につきましては、今後、検討してまいります。

3番目の1点目につきましては、参加者が43人と少なかったことから、開催時期や内容を見直したところでもあります。

2点目につきましては、5年度の成人式参加者へのアンケート結果のほか、市内3高校と相談した上で、開催時期や内容を決定したものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきます。

1番の（1）から社会保障関係費の抑制に向けた取組について再質問させていただきます。

財務省のホームページの資料では、高齢化が急速に進み、社会保障関係費は年々増加している。一方、財源は確保できておらず、子供たちの世代に負担を先送りしている。現在、この先送りの状況を打開し、持続可能な仕組みを次世代に引き渡すため、様々な取組を進めているとあり、最後のページでは、未来のために今私たちが何をすべきか考えてみようといわれています。

明確な答えは書かれておらず、政府や地方自治、政治家、企業、学校、市民、それぞれに具体的に何をどう変える必要があるのか投げかけております。人材不足と財政の悪化により、医療・介護サービスが高額なぜいたく品にならないよう、糸魚川市はフレイル予防などを推進しておりますが、これからは高齢者だけにとどまらず、広い世代に健康寿命の延伸について意識して推進していかなければならない、このように考えます。

第2次健康いといがわ21の中から、はびねす健診について伺いたいと思います。

健康づくりセンターは、はびねすを会場に実施する39歳以下限定の健診。当健診受診者に限り、当日の施設利用を無料にし、運動習慣のきっかけづくりも行っていますとありますが、開催頻度や開催時期、利用者とその関心度について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

開催の頻度ですが、年1回、時期といたしましては、おおむね6月の上旬、それで参加者、利用者数ですけれども、こちらのほうは、始めた平成29年度時点では70人ぐらいいらっしゃったというふうに認識しておるんですが、ここ数年は50人前後というふうになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

私も最近調べて、ホームページで知った状況なんですけれども、大変いい取組かと思しますので、私もう受けられないんですけれども、ぜひ広く広めていただきたい、このように思います。

以前、五、六年前になりますが、山形県上山市にクアオルト事業について視察してまいりました。

過去の一般質問でも、多くの議員さんがご質問されております。

同市は、山形県内でも高水準にある市民1人当たりの医療費や高齢化率、さらには観光で訪れる年間宿泊者数の減少などもあり、平成20年より、市民の健康寿命の延伸のみならず、地域活性化など、まち全体を再生させようと事業をスタートしました。前述の上山市は、健康ウォーキングに年5回以上参加した人の国民健康保険の医療費の増減を外部機関に調べてもらったところ、参加していない人に比べ、平均1万3,591円の削減効果があったと、2021年に発表しております。同市は、企業とのコラボレーションも進んでいるようです。

近隣の先進地である妙高市でも、このクアオルト事業について取り組んでおりますが、研究調査されたことはあるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

健康づくり担当課として、具体的な調査研究は行っておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

行っていないということですが、妙高市は、日本クアオルト協議会に加盟されておりますが、糸魚川市においても、美山公園の活用や、これから繰り返し開催されるであろう翠ペイを活用したウォーキングイベントなどを踏まえて、クアオルトの概念規定について調査が必要であるとは思いますが、研究調査を進めていただき、検証していただき、クアオルト事業に取り組む検討をぜひ試みてはいかがかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

当市では、既にスマートフォンアプリのグッピーヘルスケアというもので、歩いて健康づくりというものを推奨させていただいております。これの取組を充実させてきていて、今、市民の方で、約500名の方からお取り組みをいただいております。

そのようなことから、今年度については、翠ペイとの連携も図っておりますし、まずは、これを進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

繰り返し質問になりますが、このクアオルト事業について研究・調査しなかった理由というか、もう眼中にないというか、そんな感じなんでしょうか。大変いい取組かと思うんですが、その辺の

経緯を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

全くそれが、効果のないものだというふうな捉え方ではなくて、こういった事業があるということは認識しておりますし、非常によい取組だと思っております。妙高市の例も、ロッテアライリゾートと連携して、グリーンシーズンを利用した、豊かな自然環境の中をゆっくり歩いてというような健康づくり、そのように捉えておりますので、私どもの分野で具体的な検討はしたことはありませんが、今現在、私たちとすれば、スマートフォンアプリグッピーによる、歩こうということを推奨させていただいておりますので、その取組を進めてまいりたいというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

おはようございます。

お答えいたします。

今、健康増進課長の立場でお答えをさせていただきましたが、この事業につきましては、福祉の関係といいますか、フレイル関係の予防という部分も関係してまいりまして、いわゆる福祉部門も関係してくることから、市民部としても調査研究を進めて、当市にどのようにそぐうかどうかを研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

この提案の要旨なんですけども、結局、クアオルト事業をやってくださいとかということじゃなくて、中身を調査研究していただいて、いい部分を採用していただきたいという、そんな思いで提案させていただいております。

子供たちの世代に負担を先送りしているという事実から、健康寿命を延ばそうという機運を今以上に広い世代に高めていかなければならない、このように考えております。

財務省の資料で、国は財政健全化を目標として2025年には、国、地方を合わせたプライマリバランスの黒字化を示唆しております。つまり、一地方自治体も歳出を抑える努力をしなければ、失礼しますね、どこまで言ったかな。

休憩をお願いします。すいません。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 46 分 休憩〉

〈午前 11 時 46 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

2025年度には、国、地方合わせたプライマリーバランスの黒字化を示唆しております。つまり、一地方自治体も歳出を抑える努力をしなければ、消費税の増税は、やむを得ないとも捉えられます。こういった事実を、糸魚川市においても分かりやすい言葉で市民に伝えていかなければならないと考えます。クアオルト健康ウォーキングも、社会保障関係費を抑制する一つの手段であると考えますが、これからも糸魚川市も翠ペイなどと連動して、健康寿命延伸を強く意識したまちに向けて、引き続き取組を強化していただきたい、このように考えます。

それでは、（2）のふるさと納税増加に向けた今後の見通しについて、再質問させていただきます。

現在の糸魚川市におけるふるさと納税の納税額は、令和5年度の決算で3億7,000万円とのことですが、糸魚川市も例外なく納税額が年々増加しております。ふるさとチョイスを拝見すると、返礼品はお米を中心に地場産品のラインナップも豊富であります。納税目標額をさらに高く設定し、返礼品の流通をさらに増やすことを考えると、現在の返礼品のラインナップとエントリーで納入額の大幅アップは見込めるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

先ほど1回目の質問の中にもございましたように、年々、ふるさと納税の額が上がっていくにつれて、国のほうでも返礼品について、厳格にルールを定めてきております。その中で、ふるさと納税返礼品としてお返しできるものは、市内で生産されたものですか、市内で生産されたものを主原料として加工された製品などといった形になってきております。

当市における返礼品は、お米が一番多く選ばれておりますけれども、さらに寄附額を拡大するためには、そういったお米以外の返礼品を充実させていく必要があるというふうに思っております。

ただ、先ほど言いましたように、そのルールが厳格化された中で返礼品としての取扱いが可能かどうかといったところも確認をしながら、また、生産者の方、それから提供いただける方々と調整、話し合いをさせていただきながら、返礼品の充実而努力していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ふるさと納税については、寄附金額が毎年変動し、市の経常経費として扱いにくく、寄附金という性格・性質から、本来当てにしてよい財源と捉えられないのかもしれませんが。

中小企業にとって、ふるさと納税は、返礼品のお米や物産品がたくさん流通することによって、地域経済が活発化することが一番の利点であると考えます。

しかしながら、寄附額の目標を4億から5億、10億と高く設定するとなると、一般のふるさと納税メニューのみならず、地域の実情に応じたプロジェクトを立案し、目標値を定めたクラウドファンディングのような寄附を募る必要があると考えますが、そのようなプロジェクトの実施は、可能であるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

他の自治体では、そういった特定の事業、プロジェクトに対して寄附を募るといった取組も行っておるようであります。

したがいまして、事業を特定することで賛同いただけるといった形で寄附を伸ばすといったことも可能なのかなと、期待できるかなというふうには考えております。

ただ、現在のところ、まだ市のほうでは行っておりませんので、今後の検討の中で、事業名を特定して支援する、寄附をお願いするといったことも検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

昨日の朝のニュースだったと思うんですけども、南魚沼で取り組んでられる事業で、結局どういう目的でというところで、地域の道路の舗装にふるさと納税を充てたいというので、結局その目標値が完遂して、実際、今までやれなかった舗装ができたとか、そういったニュースが流れておりまして、私、あくまで個人的な見解なんですけど、例えば、学びの多様化学校設置に係るような費用、旧校舎の、例えば改修ですとかフリースクールの設置などにその寄附を充てるという、こういったことは可能なのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

現在のところは、特定の目的ではないですけども、ふるさとの魅力づくり、魅力発信ですとか地域づくり、安全・安心といった形で、そういった目的にふるさと納税を使わせていただきますよといったところは、広報はさせていただいております。

今ほど議員おっしゃられたみたいに、特定の事業といったことになると、今後、先ほど申し上げましたように、事業が先にあり、そこにふるさと納税を充当していくというスタイルであると、その事業を行政として実施していくのかどうかというのが、まず前段にあって、そののちをしっかりと決めていく、定めていく必要があるのかなというふうに思っております。ふるさと納税で目標額に達しない場合というのもあるかと思っておりますので、そういった場合の事業実施も含めまして、制度設計をしていく必要があるかなというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今、答弁いただきましたとおり、慎重な制度設計が重要になってくるかなというふうに感じました。

ふるさと納税については、現金をお持ちの方の市外の方、そういった企業の方のお金を滞留させないすばらしい取組であると思っております。企業版ふるさと納税のプロジェクトと併せて、鋭意、また取組をぜひ強化していただきたい、このように要望いたします。

続きまして、2番目の生涯スポーツの振興について、市内の競技人口の推移について、再質問をさせていただきます。

スポレックに限らず糸魚川市では、ビーチバレーやグラウンドゴルフの大会なども開催されており、生涯スポーツが大変盛んなまちであると実感しております。糸魚川市は、第2次生涯学習推進計画において、生涯スポーツの振興による健康づくりや健康寿命の延伸に向けて計画的に施策を展開するとあり、先ほどの質問と連動いたしますが、若年層から普及に向けた取組をするべきと考えますが、その取り組まれているスポーツを若年層に向け進行するには、関係する保護者やご家族のご協力が肝になると考えますが、このスポレック協会と、このような連携を図っているのか、今現在図っているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えいたします。

今、若年層ということでありましてけれども、糸魚川市の場合、スポーツ協会がジュニア育成団体に対していろんな支援を行っております。例えば運営の支援であるとか、全国大会出場への激励だったり、それから指導者の研修会の開催などを行う形で、スポーツ協会、各競技団体の若年の競技の方と連携を図っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

人口減少に伴いまして、どのスポーツにおいても競技人口が減少しております。スポーツ協会の会員の皆様は、それぞれの分野でご活躍されておりますので、担当課で、引き続き変わらぬサポートや支援をよろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、（2）のスポレックの普及に向けた活動をされた経緯はあるかという再質問をさせていただきます。

現在、スポーツ協会に所属されているスポレック協会のご協力により、小学校では課外授業という位置づけでスポレックを楽しむ機会が提供されているとのことですが、それら取組の効果や協会の方々が、苦勞されている点などをお伺ひしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

スポレックは、糸魚川発祥のスポーツということで、ここまで全国に普及しているのは当時の教育委員会や、またスポレック協会の皆さんが、熱心に活動があったことと捉えております。現在もスポレック協会の皆さん、学校の指導のほうに出向かれていまして、子供が大会に参加するなど、競技者の裾野は広がっていると思いますけれども、先ほど答弁にありましたように、やはり会員は減少しているということで、減少に伴い、運営上の苦勞、例えばお金の面であるとかそういうところは、苦勞が増えてきているのかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど金銭面でそういった苦勞が増えている、そういったところはもちろん支援していただきたいと思うんですけども、その学校の指導に行かれる際に、例えば学校の課外授業とかということになりますと、やっぱり時間が平日の真っ昼間ですとか、本当に働く人にとってはなかなか行きにくい、そういった時間にそういった授業が展開されるのかなというイメージがあったもので、そういった面で、運営の面で課外授業についてご苦勞されている点、分かりましたらお聞かせいただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今、部活動が地域移行してきて、地域の方が子供たちのクラブ指導に入ってくるという動きがあ

りますけれども、確かに今みんな働いている中で、子供たちの指導を本当にきめ細かくできるところまでというのは、やはり環境体制が整うのは、保護者の理解もありますし、企業側の理解も必要かと思います。

ただ、間違いなくそういう形でこれからも進んでいかなければいけないと思いますので、環境整備のほうに努めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

スポレックに限らず、課外授業などで普及活動をしてくださっている協会の方々に、いま一度敬意を表しますが、これからも担当課の方からも、健康寿命延伸の観点や、糸魚川発祥のニュースポーツであることの認知を再度深めていただきたい、このように考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、3番目、美山グラウンドの多目的グラウンド、美山多目的グラウンドの件についてでございます。

過去の私の一般質問で、多目的グラウンドを少年野球場に条例変更してほしいとお願いした経緯がありましたが、その後、フェンスや屋根つきのベンチの設置などをしていただき、少年野球場としても設備も大変充実してまいりました。成人のソフトボールの大会などにも使用されておりますが、大会などが開催されると、管理棟周辺の駐車場だけでは手狭になり、東側の舗装されていない場所に車が駐車されていることと思います。学童野球の準決勝、決勝などが開催されると、応援する方々の車でごった返しております。利用者に安心して止めていただくように、管理棟の東側をできるだけ拡幅し、スペースを確保することは可能であるか伺いたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

昼食時限のため、暫時休憩いたします。

答弁いただいてからにしますか、よろしいですか。

○10番（東野恭行君）

はい。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

再開を1時といたします。

〈午後0時01分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

大会が開催されるときには、議員さんがおっしゃるような車の状況であるということは承知しております。

多目的グラウンドについては、少年野球やソフトボールが使いやすいように整備をしてきておりまして、今後の利用の状況を見ながら、必要な整備について検討してまいりたいと思っております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

お願いします。なかなかあそこを完全に舗装するとなると大きな費用がかかるなというのがすごく予測はできるんですけども、例えば草むらな状態になってるところですとか、そういったところに止めるとなると、やはり接触事故とか、そういったのも懸念されるんで、例えば黄色と黒の虎のロープを張って線を引くとか、そういった工夫もできるのかなというふうに考えておりました。

これからの地方は、どんどん公共投資に係る費用が圧縮され、慎重な判断で投資していかなければいけないと考えます。

先般の糸魚川タイムスの報道で、糸魚川市令和5年度決算実質収支は黒字と書かれておりましたが、長期的視点で見ると歳出の増加を見込んで計画しなければならないと考えております。要望に対してどのような対応ができるか、それぞれにご相談いただき、進めていただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、3番の新成人を祝う会の参加者数と開催時期の適性についてであります。

43名の参加であったということでございますが、高校生が卒業される年の3月は、引っ越しがあったり自動車学校に通われていたり、受験生や就職される方にとって忙しい時期かなとも考えますが、そもそも、はたちの集いがあるから参加しないとの声も聞かれました。お祝いしたいという大人の気持ちとは裏腹に、新成人の気持ちも尊重すべきなのかなとも考えましたが、これから糸魚川市は、変わらず18歳の新成人を祝う会とはたちの集い、両方を開催する方向でお考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

新成人を祝う会について、お答えさせていただきます。

ご指摘のとおりで、やはりなかなか内容や開催時期の設定というのは難しいということを実感しております。今よりよい方法を探っている途中でありまして、今後の在り方も含めて、内容を検討

する必要がありと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

はたちの集いに関しまして、お答えをさせていただきます。

二十歳の皆さんですとか保護者の皆さんの意識ですとか、ニーズが変わることがあれば、また、開催の検討といったこともあるかもしれませんが、今のところ当面は、継続してはたちの集いに関しては開催していくというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

答弁の中で、市内の高校にアンケートを取られたということでございますが、アンケートの取り方、こういった設問だったのか、分かる範囲で教えていただけたらと思いますが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

昨年度につきましては、成人式をする前と、また後と、2回ほどアンケートを取っております。終わった後に尋ねたところにつきましては、例えば時期はちょうどよかったかどうか、あるいは、もしほかに理想の開催時期があれば、いつ頃がいいかとか、あと今後の実施について、成人式のみがいいか、はたちの集いがいいか、両方いいかというような内容をお聞きしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

その世代のお子さんを持つ保護者の方にいろいろお話を聞いたんですけども、どの時期にやっても、結局いろんな意見が出るんだろうなというふうにおっしゃってございました。そして、18歳の新成人を迎える会、新成人のお祝いの会ですけども、本当に開催していただくことにその気持ちがうれしいということで、保護者からもそんな声もいただいております。

そういった中で、11月4日開催時期の経緯について再質問になりますが、今回の開催は11月の開催ということで、先ほどの答弁にもございましたが、各学校の先生とご相談されたことと思いますが、18歳になられる新成人の意向が、果たしてどうだったのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

アンケートの回答数もそんなに多くなくて、きちんとした分析ができるところまでにはなかなか難しいところがありましたけれども、いただいた意見の中では、例えば5月や8月のほうがいいといった意見、また、やはり3月は引っ越しがあって参加できない。また友達が行かないからとか、はたちの集いだけでいいというような意見がありました。そのような意見も踏まえて、高校3校と年間のスケジュールというのを相談しながら、最終的には11月の開催というところで決めたものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

本当にいろんな、地方によっては、はたちの集いと新成人を祝う会、どちらか選択して、おおむねはたちの集いを今までどおり開催して、18歳の新成人の祝いをやらないという自治体も耳にします。

そういったことも踏まえて、米田市長にお伺いしたいんですけども、今後やっぱり状況を見ながらになると思うんですが、この2つ、新成人を祝う会とはたちの集う会、続けて引き続き開催していくご意向であるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私といたしましては、この18歳の、やはり成人というのは、しっかりとこれからの生きていく上で責任という、成人の責任というものも自覚をしていただきたい、この場所にしていきたい。そしてまた、二十歳は、今までの歴史もあったり、そしてまた、いろんな意味で、もう一度ふるさとの再確認する場所であったり、仲間の一体感を持っていただけるような、同年代の皆様方のそういった一体感を持っていただける、その場になればいいと思ってるわけでございまして、なかなかこれからの時代は、地元だけではなくて学校に進学のために外へ出たり、就職して、よそで働く方もおられたりもするわけでございますので、やはりふるさとで一堂に会す。そしてまた、みんなで親交を温める場というのも必要ではないかなと思っておる次第でございますので、今の段階では、2つ取り組んでいきたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

3月開催の祝う会の参加者が少ないことを懸念して、11月開催になった経緯があるならば、本年11月の開催の新成人を祝う会も、あくまで試行的になるかと思えます。これからも新成人を祝う会、はたちの集いと両方開催する方針であるならば、運営する市も、当事者にとっても有意義な会になるよう祈念申し上げますが、開催することに強い意義、目的があり、一人でも多くの新成人をお祝いしようと思うならば、最近できた通信制の高校や各高校に市から予算をお渡しして、各高校の学校の都合のよい日にちと時間に式を開催してもらい、特色のある式をそれぞれに開催してもらうのも案かと思えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

議員のご提案の方法も、一つの方法かと思えます。私たち担当課のほうとしましても、学校と連携をしたようなお祝いの方法も検討しましたがけれども、高校側の負担というのも考えまして、今年度は、広く若い方が夢のある話を聞く機会にしようということで、今回の計画を立てたものであります。先ほど申し上げたとおり、いろいろよい方法を探っている状況でありまして、いろんなご意見をいただきながら、来年度以降のお祝いの会について、検討を続けてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

18歳時に行われる新成人を祝う会に関しては、忙しいから行かないという児童生徒の話もあれば、お祝いをしていただく気持ちに対して感謝していただく保護者の声も聞こえております。せっかく開催するのならば喜んでいただきたいですし、新成人にも、成人として当事者意識を持っていただく、そういった会になってほしいと願っております。

続きまして、4番目の未満児保育料の無償化が実現した場合の予算の試算ですね、再質問させていただきます。

年間6,400万円の試算であるとのことですが、未満児保育料の無償化は、確かに実現すればよいと思えますし、糸魚川市の子育て支援にとっても先進的な取組であると考えますが、実施し始めると、財政が厳しくなってきたので途中でやめましょうということは難しいと考えます。市の財政が厳しくなり、制度を元に戻そうとすれば、今まで当たり前にかかっていた未満児の保育料が、それぞれのご家庭のご負担という文字に変わり、住みにくいまちになりかねないとも考えられます。国の制度がどう変遷していくかにらみつつ、考えていかなければならないと考えます。

糸魚川市に限らず地方は、子育て世代それぞれの経済的支援だけではなく、子育て世代が過ごし

やすく充実した子育て環境をつくっていくんだという、糸魚川の強い気持ちが大切であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

子育てに関しまして、保護者さんが感じる、その負担の軽減ということになりますと、自治体間でやはり同じようなものとなって、結果的に自治体間の競争といいますか、そのような形になっている部分もあるのではないかなというふうに思っております。議員おっしゃられるとおり、一度制度を始めてしまいますと、なかなかそれを廃止するというのも難しいというふうにも思っております。

保育料に関しましては、3歳から5歳までの保育料はもう全国で無償化というふうになっておりますので、未満児につきましても国全体で考えていただかなければいけない部分もあるのかなというふうに思っております。当市でも財政的な面も含めて、これから検討していかなければならないと思っておりますけれども、いずれにいたしましても議員おっしゃるとおり、今後も、子育て世代にとって居心地のよい、産み育てやすい環境づくりというものを目指して、気持ちを持って取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく申し上げます。

（2）番の幸福感を増幅させる取組について、再質問させていただきます。

6月27日の総務文教常任委員会の所管事項調査において、人口減少対策プロジェクトについての資料の中で消滅可能性自治体となったことへの対応の調査研究、検討事項の項目で、市民が幸せを感じ、幸福度を高める取組の研究という項目を見たときに、一口に市民といっても、年代や性別、生活環境など、それぞれに違いますし、市民の中のどんな人の幸福度を高めたいのか、その絞り込みが重要であると考えました。

まずは、幸福とはどんな状態であるのか、そして、今後はどんな人の幸福度を高めていきたいのか、お考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

まず、幸福度ということでありまして、国の内閣府の報告の中に、幸福度の指標といったところもありまして、主観的な幸福感、つまり幸せかどうかといったことですか、経済社会状況、

心身の健康、関係性といったことも出てまいります。世界的に見ますと、OECD（経済協力開発機構）の中でも住宅、所得と富、それから雇用と仕事の質、社会とのつながりといったところを幸福度の指標として測っているところもございます。そういったところまで、現在、市単位で測っているところはないんですけれども、まず、市民の誰もが、いつまでも健康で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるといったところが、大切だとは思っております。

総務文教常任委員会で報告させていただいた資料の中で、幸福度を高める取組の研究と書かせていただいた部分は、人口減少に対応したまちづくりといったところで、都会と比べても糸魚川市内で暮らしていくことの幸せ、そういったところを市民の皆様であったり、市外から見たときに分かっていただけのような、ホームページですとか、そういったところを出していきたいといったところを考えているものになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

幸福度の観点の中で、経済的な豊かさという観点で補足をさせていただきます。

国土交通省の資料の中に、都道府県別の経済的豊かさという資料がございます。これは可処分所得から基礎支出を引いた金額については、可処分所得については、東京圏の都であったり県が高いんですけども、基礎支出であったり、通勤にかかる費用とか、通勤に要する時間を金額的に換算したものを控除すると、結果的に、東京都は47都道府県中の47位。一方、新潟県が7位という数字もございます。そういうふうに、その経済的豊かさの観点もいろんな捉え方がございますので、そういうものも含めて、住んでいる方へのPRですとか、あと都会からUターンされる方への対応とか、そういうものも含めて考える必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今、中村課長の答弁いただいた中で、市民全体の幸福というところでご答弁いただいたんですけども、それであるならば、今までやってきた施策と、どうなんだろう、変わるんだろうかというところをちょっと今考えまして、また、あくまで国が示した画一的な、そういった施策に終わるんじゃないかなというふうに感じております。

糸魚川市として、どんな政策をやっていきたいんだというところを一番聞きたいんですよ。そういったところで、今のところこんなふうに考えてるという、そういった案があれば、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

先ほどの人口減少に対応したまちづくりということで、市民の皆様に向けて糸魚川暮らしの心地よさであったり幸せ感であったり、市外の人から見てというところをPRしていくという観点と別に、やはり若者、特に女性の定着促進というところも、今回の人口減少のプロジェクトの中で調査研究、検討事項としても上げさせていただいておりますので、そういったところは特に力を入れていく分野だというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

本当大事なところだと思うんですけども、若い世代の女性とはっきり言っちゃったほうがいいと思うんですね、市民全体って、すごく当たり前になってしまうので。そういった意味では、今後、糸魚川市、そういったところに集中して、幸福感が得られるような、そういった取組をしていきますというふうにうたっていたいただいたほうが我々も分かりやすいかなと思いますので、よろしく願います。

同プロジェクトの調査研究、検討事項の項目で、人口減少についての市民への周知、情報提供ということですが、糸魚川市の人口減少に対して認知度や関心度が高まれば、広く市民からも取組に対して協力が得られるのかなと考えますが、周知、情報提供した後のアクションは、どのように考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

人口減少のプロジェクトの報告の中で、消滅可能性自治体となったことへの対応といったことで、人口減少に対して市民への周知、情報提供といったことで書かせていただいておりますが、消滅可能性自治体となったことで、市民の皆さんからの心配であったり、今後どうなるかという不安の声もいただきましたので、そういったことへの対応として、消滅可能性自治体だけではなくて人口減少についての情報を提供したほうがいいかなということで記載をさせていただいたものになっております。

ただ、総務文教常任委員会の視察で柏崎市行かせていただいた際にも、消滅可能性都市から脱却したからといって人口減少の厳しい状況は変わらないといったお話も聞いてまいりました。こういった形で情報提供をしていけばいいのかといったところは、思案中でございます。

情報提供の検討をしているという段階でございまして、その後のアクションといったところまでは、今のところは、まだ考えていないところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

引き続き、再質問させていただきます。

同プロジェクトについての資料の中で、取組状況のワーキング部会の開催状況で、昨年10月11日に開催された若手市職員との意見交換会で、U I ターンの施策に何が足りないかをテーマに議論されたようですが、どのような意見が、まず出たのか。そして、本年は、どのような予定で部会を開催していくのか。実際の糸魚川市へのU I ターン者の動機についても調査されているのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

昨年、市職員との意見交換会、U I ターンの施策に何が足りないかと、非常に行政的な課題テーマでやらせていただきました。そうしたところ、まず、行政の移住ですとかに向けた施策があったから帰ってきたんだといったことではないといった意見が、ほぼほぼでございます。仕事ですとか家族の関係で、やはり糸魚川市にUターン、Iターンしてきたといった職員、若手職員の意見でございました。

そういった状況を受けて、今回、今年は若者の懇談会ということで9月中に開催をさせていただきますけれども、市内の若者の方から集まっていただきまして、糸魚川市について、今後について自由に懇談していただくというところから、まず始めていきたいと、自由な意見をいただきたいというふうには考えております。その1回目の状況を見て、また次といったところも検討はしていきたいというふうに思っております。

U I ターンと情報につきましては、今のところU I ターンのきっかけ、動機をお聞きするといった仕組みについて今後やっていきたいと、そういう取組をしていかないと、糸魚川市の施策がU I ターンのきっかけになってるか分からないといったところもありますので、そういったところを市民課と協力しながら、情報を得るようにしていきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

実は、私も何で帰ってきたのって聞いたときに、こういう施策知ってたと聞くと、やっぱりこれが理由で帰ってきたんじゃないというのは直接聞いたことがあって、やっぱり帰ってきた理由について、支援だったり手を差し伸べたりすることが大事なのかなというふうに感じましたし、また今後、そういう対応ができるように、またいろいろなそういうワーキンググループの巻き込み方、また、広く市民にまたやっていただくということなので、ぜひ議会も傍聴させていただきたいなぐらいに思うんですけども、またそういった機会を積極的に開催していただいて、やはりサンプル、コメントを取ることが肝要になると思いますが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

若者の懇談の場につきましては、昨年開催したのとは、今度違いまして、本当に自由闊達に意見交換していただく、フランクな形で意見をやり取りしていただくというところをちょっとメインに考えていきたいと思っておりますので、今のところ皆さんから見学いただくと、逆に、ならないかというところもちょっとありますので、少し、そこまではちょっとできないかなというふうに思っておりますけれども、何らか報告をさせていただく場面とか、そういうところは、行政側としても、市長なりに報告をしてもらうとか、そういったところを最終的な結果ですとか、いただけるような段階になれば、考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

最後に、市長に要望とさせていただきたいと思いますが、人口減少の波を少しでも緩やかにしていくには、今住んでいる市民の幸福感を高めることが重要であると考えます。市民一人一人の人生設計の中で、市がどのポイントで手を差し伸べるのがよいのか、研究と調査が必要であると考えます。若手職員との意見交換会は、よい取組ですし、これからも実施し続けていただきたいと思います。市役所だけでは人口減少対策は厳しいと考えますので、もっと我々議員も活用して、人口減少対策と定住人口拡大に努めていただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員の皆様方のいろいろと意見交換というのは、やはり年4回の議会であったり、また、その中の委員会であったり、いろいろ情報をいただいております。また、市民の皆様方とのこの意見はどのようにしておるかというところもあろうかと思うわけですが、なるべく若い人たちのところに向いて行って、そしてまた、行政だけではなくて商工会議所等、また商工会の皆様方とのいろんな若い人たちが集まるようなところにも参加させていただいて、直接意見をお聞きするような場をつくっておる部分があります。まだまだそれで足りないのかもしれませんが、なるべくそういう機会をつくって、意見を聴きながら、我々も今行っておる対応策というのは、必ずしもパーフェクトなものではないというのは分かっておる部分でありますので、今のようなその施策を、要はしっかりと広げていくのか、また新たな施策をやらなくちゃいけないのかというのを検討していきたいなど。そういったものに生かしていきたいと思うので、積極的に対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

商工会議所主催のチル・ナイト・ミーティングや、そういった若い方と接触する機会というもの、だんだん増えてきておりますし、今後もその視点で、また頑張って取り組んでいただき、糸魚川市も頑張って取り組んでいただきたい、このように思います。

以上で、私の一般質問を終了します。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問は終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を35分といたします。

〈午後1時30分 休憩〉

〈午後1時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

こんにちは。糸魚川の未来を魅せる会、伊藤 麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、糸魚川市の持続可能性について。

消滅可能性のある自治体からの脱却を目指す上で、必要と思われる施策は多くありますが、その中から特に以下について伺います。

(1) 若者の定住促進策について。

糸魚川市における若者の定住促進策として、現在実施している取組と、その成果について伺います。また、今後どのような新しい施策を計画しているのか伺います。

(2) 雇用創出と人口維持について。

糸魚川市における雇用機会の創出と、それによる人口維持のために、市としてどのような具体的な計画を持っているのか伺います。また、地元企業との連携や新規事業の誘致について、どのように取り組んでいるのか伺います。